

経営戦略の取り組み実績について

経営指標の目標値

<電気事業>

指標	現状 (H27~29平均)	数値目標	概要
経常収支比率 ^{※1}	126%	125%以上 (毎年度 ^{※2})	設備更新や地域貢献のための財源を確保します
水力発電 年間供給電力量	169,877千 kWh ^{※3}	175,000千kWh (H40(2028)年度末)	効率的な水運用や発電施設の更新等により供給電力量の増加を図ります
地域貢献 ^{※4}	25百万円/年	5億円以上 (10年間総額)	電気事業で得られた利益で地域へ貢献します

【評価】 A: 順調または妥当 B: 概ね順調または妥当 C: 要努力 D: 要見直し

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	実績 又は評価
経常収益 1,623,671千円(7.10%) /経常費用 1,173,825千円(▲16.2%) =138.3%(30.0 ⁺ イント) ()は対前年比	・河川流況が良かったことによる水力発電の供給電力量増と、経費削減の取り組みにより目標値を上回った	138.3%
<参考> (計画) 170,399,000 kWh (実績) 187,066,957 kWh [前年度 155,982,526 kWh] ・計画の109.8% ・前年度実績の119.9%	・供給電力量の増加の検討に向けて情報収集をしているが長期的な観点ではFIP制度の内容がまだ明らかでないことから、発電施設の更新等の目途は立っていない ・R2年度の発電量については比較的河川流況が良かったことや、予定外の長期停止がなかったこと等により目標を上回った	A
地域貢献 総額 69,644千円 ・再エネ利活用補助金 31,082千円 ・繰出金(再エネ関連) 10,562千円 ・ダム周辺環境整備 23,000千円 香北地区2事業・物部地区4事業 ・物部川森林整備 5,000千円	・再エネ利活用補助金 交付額/予算=92.8% ・ダム周辺環境整備事業 交付額/予算=100% R2年度は50,000千円を超える地域貢献事業を実施できた	A

<工業用水道事業>

指標	現状 (H27~29平均)	数値目標	概要
経常収支比率	110%	115%以上 (毎年度)	黒字経営を継続します
契約率 ^{※5}	鏡川 45.6% 香南 11.7%	50%以上 (H40(2028)年度末)	給水量の拡大を図ります
鏡川工業用水道 送配水管路の耐震化率 ^{※6}	19.7% (H30年度)	25%以上 (H40(2028)年度末)	更新により送配水管路の耐震性能を確保していきます

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	実績 又は評価
経常収益 281,860千円(7.07%) /経常費用 258,890千円(5.69%) =108.9%(1.4 ⁺ イント)	・香南工水では契約水量が伸びた一方で、鏡川工水では利用者の減等があり、全体では前年比微増となった	108.9%
・香南工水では、県及び旧市施設を活用した安定給水を実施 ・工水利用に関心のある事業者へ情報提供を行ったが、新たな給水先の獲得には至らなかった <参考> 鏡川 24,538 m ³ / 55,800 m ³ =44.0%(▲1.0 ⁺ イント) 香南 2,458 m ³ / 8,000 m ³ =30.7%(17.0 ⁺ イント)	<鏡川> ・R2年度は利用者の減もあり給水量が若干減少している <香南> ・R2年度は利用者の一時的な水需要の増もあり給水量が想定を上回った ・統合により給水量は増加したものの、2028年度末までに給水量が統合時の計画値まで達することは厳しい状況	C
・優先整備区間(配水池出口~配水管路分岐地点まで約1.5km)のバイパス整備に向けた基本設計 ・布設ルート等の関係者への説明及び協議	・管路更新の基本設計を行うとともに、関係町内会や利用者への説明を行うなど現時点で可能な限りの準備を進めている	B

※1 経常収益÷経常費用×100。当該年度の料金収入等の収益で、人件費や支払利息等の費用をどの程度賅っているかを表す指標。

※2 水車発電機のオーバーホール等大規模修繕工事を実施する年度を除外。(平成28年度の経常収支比率は123.7%)

※3 平成30年度及び31年度の予定供給電力量。昭和62年度から平成28年度までの可能発電電力量の30年平均値を基に算定。

※4 ダム周辺環境整備事業交付金、物部川水源の森整備事業費補助金及び地域振興積立金を活用した事業(再生可能エネルギー利活用事業費補助金及び一般会計への繰出し)を想定。

※5 契約水量÷給水能力×100。なお、香南工業用水道は計画給水能力の日量8千m³にて算出。また、契約率の現状は、鏡川、香南ともに平成30年4月時点の契約給水量から算出。

※6 香南工業用水道の耐震化率100%。経済産業省の資料では、工業用水道事業における管路の耐震適合率は、平成27年度末時点で40%であり、平成31年度までに44%以上にするを旨とされている。

電気事業

(1) 電力システム改革への柔軟な対応及び (2) 施設の老朽化対策

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■事業収支の向上に繋がる方策の検討	ダム・発電所の適正な維持管理・効率的な運用						→
	H30委託成果精査 方針検討	発電電力量増に向けた検討					
■老朽化施設の計画的な施設の修繕・改良の推進		(優先順位検討) 吉野リニューアルの検討		永瀬改修検討 (永瀬ランナ流体解析)		永瀬2G 実施設計 H39永瀬2G	→
	計画的な施設の更新						
	吉野OH	集中監視制御システム更新		吉野屋外変電設備更新			
	杉田OH実施内容の検討			杉田OH			
	長期修繕改良工事計画の見直し検討と改訂						→
■水力発電の売電方法の検討	情報収集・整理	情報収集・整理	情報収集・整理	情報収集・整理	情報収集・整理	情報収集・整理	→
	方針検討	料金 方針検討	料金 方針検討	料金 方針検討	料金 方針検討	料金 方針検討	
	契約準備★	契約準備★	契約準備★	契約準備★	契約準備★	契約準備★	
	売電方法の検討						
						基本契約終了★	→
							発電所 ランナ更新 又は リニューアル 1箇所 (2028)
							売電料金 収入 14億円 (年間)

【評価】 A: 順調または妥当 B: 概ね順調または妥当 C: 要努力 D: 要見直し

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価 (内容)	評価
<ul style="list-style-type: none"> ダム、発電所の適切な維持管理・運用に努めた 水力発電所リニューアル検討委託の内容を精査するとともに、FIP制度の検討状況や新たな電力市場等について情報収集 集中監視制御システム更新工事新システム運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ダム、発電所の適切な維持管理・運用を継続できている リニューアルのための基本設計について方向性を検討しつつFIP制度や新たな電力市場等について情報把握に努めている ダム再生計画も見据えながらリニューアルの局内検討を早期に開始する必要がある 計画的な施設の修繕・改良に取り組んでいる 新集中監視システムが稼働し、保守・監視機能面で利便性が向上した(新機能として記録を出力して活用することや、ダム情報などをWEB上で一般公開することが可能となった) 	B
<ul style="list-style-type: none"> 電力市場における新たな制度への適切な対応(非FIT非化石価値の電力量認証、容量市場への応札) 県内事業者を対象とした新たな電力供給ブランド「高知家応援でんき」に関する四国電力との協定締結(2/17) 	<ul style="list-style-type: none"> R4年度以降の方針の検討や電力市場等への準備を進めている 産業振興、地域活性化及びカーボンニュートラルにつながる取り組みを進めている 	A

【評価】 A:順調または妥当 B:概ね順調または妥当 C:要努力 D:要見直し

(3) 災害に強い体制の整備

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■豪雨災害や南海トラフ地震に対する管理体制の強化	放流対応訓練の実施						各訓練 1回以上 (年間)
	関係機関との連携強化						
	資金確保策の検討	資金の確保					
	震災対応訓練の実施とマニュアル等の見直し						
■施設の強靱化	杉田ダムの適切な水運用の実施						—
	事例研究及び対策検討						
	永瀬取水口スクリーン修繕						

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価 (内容)	評価
<ul style="list-style-type: none"> 訓練等の実施(洪水対応演習、震災対応訓練及び研修、事前放流対応訓練、水難事故対応訓練、系統事故復旧訓練及び研修、シミュレーション訓練、職員安否確認訓練、エレベータ閉込時救出訓練) 物部川ダム予報連絡会、物部川ダム連絡会 物部川水系治水協定締結(5/28) 杉田及び吉野ダム操作規程の改正(7/17) 杉田及び吉野ダム事前放流実施要領の制定(7/17) ダムの事前放流の体制構築 既存マニュアルの改定及び新たなマニュアルの作成 HPでのダム情報の公開 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の訓練を実施し、事故等への対応力の向上に努めている 事前放流のための手続きを迅速に進め、杉田ダムで事前放流を実施した 震災対応訓練等の実施を踏まえたBCPの見直しが行えた 	A
<ul style="list-style-type: none"> 杉田ダムの適切な水運用を実施(耐震等考慮) 	<ul style="list-style-type: none"> 杉田ダムの適切な運用を継続している 	—

(4) 再生可能エネルギーの推進と地域還元

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■再生可能エネルギーの導入支援	市町村支援						5億円 (10年間 総額)
	繰出し支援						
	大豊風力運転終了★撤去						
	積立金検討						
◆地域還元事業の推進	ダム周辺環境整備事業交付金						—
	物部川水源の森整備事業補助金						
	公営企業局の森の適切な管理						

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価 (内容)	評価
<ul style="list-style-type: none"> 市町村への再エネ関連調査への支援(再エネ補助:3町村、交付額 31,082千円) 一般会計の再エネ関連事業へ繰出し(10,562千円) 	<ul style="list-style-type: none"> 再エネ導入に取り組んでいる市町村に対し、支援ができています 	A
<ul style="list-style-type: none"> ダム周辺環境整備事業(23,000千円)(入札不調による実施事業の変更等の適宜対応)(香北地区2事業、物部地区4事業) 物部川水源の森整備事業(79.8ha、5,000千円) 公営企業局の森の適切な維持管理(岡ノ内 間伐 0.5ha、88千円) 	<ul style="list-style-type: none"> ダム周辺環境整備事業では、入札不調に柔軟に対応するなどし、市事業に活用されている 	

工業用水道事業

(1) 工業用水の需要低迷への対応

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■給水先（給水量）の拡大 鏡川 香南	営業活動（鏡川） 新規需要拡大可能性検討（鏡川）						契約水量 29,000 m ³ /日
	市工水との統合に向けた取り組み（香南） 効率的な運用（香南）						
	施設の稼働準備 国等との協議						給水支障 ゼロ （年間）
■更なる事業の効率化 鏡川 香南	施設の適切な維持管理（鏡川・香南） 事業の効率化の推進（鏡川・香南） 管路更新時のダウンサイジングの検討（鏡川） 効率的な運営（香南）						

【評価】 A:順調または妥当 B:概ね順調または妥当 C:要努力 D:要見直し

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
<鏡川> ・契約水量 24,538 m ³ /日（R2年度実績） ・契約水量は1者が廃止し微減 ・給水についての問い合わせ数件に対応（給水につながる案件は無し） <香南> ・契約水量 2,458 m ³ /日（R2年度実績） ・利用者の罹災施設の復旧目途等についての状況確認を実施	<鏡川・香南> ・給水量の拡大は難しい状況にある <香南> ・利用者の一時的な水需要による給水量の増加があった	C
<共通> ・安定給水と健全な経営の維持に取り組む <鏡川> ・管路の漏水事故（2件）に速やかに対応し、給水支障を最小限に抑制 ・漏水したφ400系統から並行するφ500系統への切替を検討	<鏡川> ・目標は達成できなかったものの漏水事故に対し早期対応が行えたため最少限の給水支障で復旧 ・管路更新区間のダウンサイジングや、漏水区間の切替を検討したが、各給水地点における給水圧の確保ができなくなる個所があることから、現時点では現状維持が適当という結果となった	C

(2) 施設の耐震・老朽化への対応

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■老朽化施設の計画的な修繕・改良の推進 鏡川 香南	施設の計画的な修繕・改良の実施（鏡川・香南） 委託調査（鏡川・香南） 方針等検討		対策の実施				優先整備 区間の 管路 更新 (2028)
	更新施設の精選と実施に向けた取り組み（鏡川） 管路更新概略検討 基本設計 実施設計 方向性検討 利用者への説明 国との協議		配水管路優先区間更新（バイパス整備） 料金改定（案） ★				
	長期修繕改良工事計画の見直し検討と改訂（鏡川・香南）						訓練 1回以上 （年間）
■地震対策の充実強化 鏡川 香南	震災対応訓練の実施とマニュアル等の見直し（鏡川・香南） 備蓄品購入（鏡川） 被災時の代替給水策の検討（鏡川）						

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
<鏡川> ・今後の進め方等を検討 ・管路更新の基本設計を実施 ・布設ルート等の関係者への協議及び、説明会の実施 ・料金について利用者との意見交換会の実施 <香南> ・昨年度の耐震診断結果を基に西野接合井の対策工事を実施 <共通> ・長期修繕改良計画の見直し検討及び実施	<鏡川> ・耐震診断結果を活かした施設管理ができている ・管路更新に向けた工事検討は順調に進捗している ・関係者及び利用者へ説明し、一定の理解が得られている <香南> ・西野接合井の耐震対策が完了し、旧県施設は耐震性能を確保できた	A
・震災対応訓練の計画及びBCPマニュアル改定 ・鏡ダムとのダム放流予報連絡についての協議 ・鏡川氾濫時の浸水防止対策を検討 ・貯蔵品の購入、管理	・震災対応訓練等の実施を踏まえたBCPの見直しが行えた ・貯蔵品の計画的な購入ができた	A

共通事項

(1) 組織体制の強化と人材育成

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■若手職員の教育の充実と能力向上の取り組み支援	OJTの強化						資格取得 1名以上 (年間)
	資格取得推奨						
	局内発表会の開催と外部発表の推進						
■震災対応訓練の充実	震災対応訓練の実施とマニュアル等の見直し[再掲]						訓練 1回以上 (年間)
	備蓄品購入(鏡川)						

【評価】 A:順調または妥当 B:概ね順調または妥当 C:要努力 D:要見直し

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	評価
<ul style="list-style-type: none"> 電気取扱業務に係る特別教育等のOJTの実施 資格取得者、技能講習・特別教育修了者 計47名(ダム管理主任、玉掛技能、チェーンソー、研削といし、フルハーネスほか) 免許更新18名 局内発表会の実施(2回、発表6名) 外部研修(8名) 	<ul style="list-style-type: none"> OJTの強化及び資格取得の奨励等を積極的に推進している 	A
(再掲) 【電気事業、工業用水道事業】 <ul style="list-style-type: none"> その他 車載脱出用ハンマー購入 備蓄物資・燃料の確認・補給 衛星携帯電話の整備 	(再掲) 【電気事業・工業用水道事業】 <ul style="list-style-type: none"> 震災対応訓練等の実施を踏まえたBCPの見直しが行えた 【工業用水道事業】 <ul style="list-style-type: none"> 貯蔵品の計画的な購入ができた 	A

(2) 経営の効率化

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■発注の工夫等による経費の削減の推進	経費削減の推進						—
■民間活用による効率化等の検討	民間活用による効率化等の検討						—
■新技術の活用による効率化の検討	発電施設への新技術活用検討						新点検 技術導入 1件以上 (2028)
	工水施設への新技術活用検討						

R2年度取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	評価
<ul style="list-style-type: none"> 競争性確保に係る精査の実施 契約までの迅速性や競争性の確保などの観点から経費削減につながる発注を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 経費削減に向けた取り組みを推進している 	—
<ul style="list-style-type: none"> 鳥取県庁におけるPFI(コンセッション)事業の情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 他県の取り組み状況の把握に努めている 	—
<ul style="list-style-type: none"> スマート保安に関する補助実証事業採択に向けての検討 他県事例等の情報収集 施設巡視におけるドローンの活用 テレワーク及びWEB会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新技術の活用に向けて、事例収集及び試行に取り組んでいる 局内会議など積極的にWEB会議システムを活用している 	A